

# 航友会だより

発行／中日本航空専門学校航友会事務局

〒501-3924 岐阜県関市迫間1577 中日本航空専門学校内 ☎(0575)24-2521 FAX(0575)22-9816

平成9年度

代議員会開催	.....1
新学科紹介	.....2
人事情報	.....2
トピックス	.....
機体に関する2つの話題	.....3
各学科の近況報告	.....3
部活動紹介	.....4
卒業生より	.....4
通信欄	.....4
編集後記	.....4



平成8年度事業会計報告

平成8年度は、特別な事業の無い年でしたので特筆すべきことはありませんが、前校長・現職学科長及び卒業生の死去に伴い、今後この様な事由が発生した場合の対応を検討することになりました。

## 平成9年度代議員会開催

平成9年10月25日(土)、愛知県犬山市の犬山館において平成9年度の代議員会が開催されました。当日は多忙な中にもかかわらず、22名中16名の代議員の参加を得、活発な討議が行われました。

### 平成9年度事業計画・予算

平成9年度も、通常の年に行われている活動が中心となりますが、今年度から卒業記念品が再び贈られることになりました。記念品は以前と同じ名刺入れですが、社会人1年生に贈るものとしてよい記念品ではないでしょうか。沖縄支部は活動が停滞しているのが現状ですが、唯一の支部でもあるため例年どおり支援することになりました。

### 30周年記念事業計画について

西暦2000年の4月、本校は開校30周年を迎えます。江南校舎から卒業

した卒業生は、1145名、移転した関校舎から巣立った卒業生は、5342名。2000年には一期生も五十歳に手が届く年齢になります。

現在学校では、30周年記念行事に対して特別委員会が設置され、内容の検討と共に、その一環として30周年誌の編集が進められています。また、学生ホールの建設計画も立案されていますが、多額な費用がかかるため、慎重に検討を進めています。

そこで航友会としても何らかの支援を行うことが予測されるため、代議員会で他校での記念行事の調査結果が報告されると共に、記念事業基金の設立について検討が行われました。

会員の皆様には、今後当件について何かとご協力を依頼することになると思われます。誌面をお借りし、お願い申し上げます。

### 平成8年度 会計決算報告書

収入の部	
項目	金額(円)
前年度繰越金	18,837,978
会費(1)	1,920,000
会費(2)	360,000
寸志	70,000
名簿売上等	103,040
預金利息	83,537
合計	21,374,555
支出の部	
同期生名簿作成費	171,678
同窓会開催費	1,049,977
会報作成費	594,043
支部等援助費	97,140
会議費	225,648
事業運営費	29,348
通信費	4,150
雑費	63,656
小計	2,235,640
次年度繰越金	19,138,915
合計	21,374,555

- ・会費(1) 384名
- ・会費(2) 同窓会会員72名
- ・寸志 学校、鈴木前校長、田口先生
- ・名簿売上等 賛助会、興国、名簿購入者10名
- ・同期生名簿作成費 1999年3月卒業生10名
- ・同窓会開催費 H.B.E.10月19日実施
- ・会報作成費 第一分冊、500部
- ・支部等援助費 M16機、ラグビー部O日会
- ・会議費 支部役員会、代議員会
- ・事業運営費 監査依頼、沖縄支部調整
- ・通信費 役員会、代議員会郵便代
- ・雑費 ファイル代、フィルム代、香典代

# 新学科紹介

平成11年4月、新しい学科が開設します。

科名は「エアポート・サービス科」です。この

学科の開設目的は、年々増加しつつある、航空輸送産業に対応する学科として、空港における「地上支援業務(グラウンドサービス)」と「航空貨物取扱業務(エアカーゴ)」の技術者を養成することです。

航空輸送産業も政府の航空規制緩和化政策にとまねない、航空会社は合理化の一環として、航空機の運航に重点を移し、運航の付帯業務である地上支援業務や貨物取扱業務については、業務の委託化が進行しております。

このような状況の中で、業界においては人材の育成が急務となっており、当校では航空輸送産業界のニーズに応えるべく新学科を開設することになりました。

この学科の特色は他の専門学校で部分的に開設している「地上支援業務」と「貨物取扱業務」を、相互に

関連する一貫業務として、総合的に教育することです。

教育内容としては、「地上支援業務」は各種機器を使用し、航空機が到着してから、出発までの地上における作業、例えば着陸後の駐機場への誘導、貨物室への手荷物や貨物の搭載、積降ろし、客室の整備、到着時より出発までの諸準備作業に関する知識、技術を教育します。また、「貨物取扱業務」では、輸出入貨物の取扱に必要な知識、例えば航空に搭載する商品の取扱方法、航空機への貨物搭載方法、輸目的地までの輸送ルートの設定、中継地や目的地の空港や輸入手続などの現地事情等を教育します。又、輸出入貨物には通関という税関に対する手続が必要であり、通関手続きには「関税法」など多数の法律や条約が関係しており、貨物取扱にはこれらの知識が不可欠です。併せて教育を行います。

# エアポートサービス科

要な科目を設け、わかりやすく教育し航空取扱の総合的な技術者を育成します。

このように業務遂行に必

また各種資格についても、関係する国家資格、認定資格(通関士、国際航空貨物取扱士、各種車両資格、航空特殊無線、英語検定等)の資格取得に万全を期す体制です。実習用機器も航空会社の好意により整いつつあります。

既設三科の伝統と培われた最適な教育環境の中でさらに新しい発展を目指し努力していく所存です。

先輩諸氏のご支援をお願い申しあげます。



# 人事情報

M / 電子制御科 S / 航空電子制御科  
E / 航空生産科

## 平成10年度 航友会役員

会長 上村信雄(M1) 全日空  
副会長 浅野敏美(M1) 日本航空

幹事 藤井健一(M13) 帝人製機  
山田 登(M6) 日本航空

岩本吉則(M6) 日本航空  
安藤弘治(M8) 日本航空

菊谷 茂(M9) 日本航空  
中村寿志(M9) 日本航空

吉森文夫(M9) 日本航空  
畠岡雅彦(M11) 日本航空

梶田和彦(S1) 日本航空  
杉山浩一(S4) 日本航空

伊藤賢哉(E4) 日本航空  
勝田正博(M1) 日本航空

齋藤幸博(M3) 関西航測  
伊藤信元(M4) 日本飛行機

牧志 力(M5) 早稲田大学  
大村聖彦(M10) 川崎重工

横山 実(M11) 川崎重工  
佐藤賢二(S1) 出雲製鋼

西村芳政(E3) 出雲製鋼  
濱田慎一(S5)

会計監査 長谷川恵二郎(M6) 伊藤林業  
岡田洋子(S4) (旧姓西川)

学内 ●●●採用●●●

航空電子制御科

学科長 瀧島恒夫

航空生産科 教員 玉倉宏朗

エアポートサービス科 教員 末武信明・深谷義明

航空整備科 ●●●退職●●● 教員 三好礼市・前田 勲

航空生産科 教員 福永 剛

## トビックス—機体に関する2つの話題

## RV-4完成間近

少し古い話ですが、平成元年に生産科(当初は技術科)の板金組立教材として、RV-4(アメリカ製のホームビルト機)を輸入し、製作を開始しました。足掛け10年の歳月を費やし、今年、ほぼ完成し、場所も組立作業室から格納庫へと移動して最終仕上げの状態となりました。

生産科2年生が代々少しずつ作り続けた機体、思入れの強い方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今年からは2号機の製作も始まり、1号機のノウハウを活かし、大空に飛ばせたいと考えています(?)。

ベル式206型  
ジェットレンジャー導入

平成4年度(養成コースは5年度)から実習教育機材として使用してきた、川崎ヒューズ式369HSの後継機として、この度ベル式206B型ジェットレンジャーを購入することになりました。

平成11年度(養成コースは13年度)から教育を開始すべく、現在は教員が実地試験の猛勉強中です。

今回の機体は兵庫県警(ひよどり)で活躍していたものですが、教育開始までには、多くの機体を購入する予定です。OB諸兄の方々にも何か心当たりがあれば、ぜひ一報を。



## 各学科の近況報告

航空電子制御科  
PCゼミ教育用コンピュータシステム導入

航空電子制御科では、コンピュータ技術を中核とする電子制御技術や、情報通信技術に力を入れて取り組んでおり、この度最新鋭の教育用ネットワーク・コンピュータシステムであるPC-SEMII教育用コンピュータシステムを導入し、軌道にのせました。

この新システムは、教員卓コンピュータと、40台の学生卓コンピュータが、中央装置を介して音声・画像・データの交換ができる双方向対話型教育システムとなっており、単なるコンピュータ教育のみならず、マルチメディア社会にも適応する技術者の養成を可能とします。ますます充実した教育環境となりました。

航空生産科  
CAD/CAM教育用LANシステム導入

航空生産科(旧航空技術科)は、今年で早13年目を迎えますが、時代の移り変わりにより、平成8年2月から待望の、本格的なCAD/CAM教育用LANシステムを導入し、現在では、学生が放課後遅くまで勉学に励むことができる環境が整いました。

導入による成果も見られ、昨年のAUTOCAD技能認定試験オペレータ資格では、合格率90%を超える、大変優秀な取得率を得ることができました。また、年々卒業生に対する企業からの評価も高くなってきており、これからの益々の成果が期待されます。



## 活動紹介

野球部、全国大会  
初出場!!

創部8年目を迎える野球部は、毎年秋に行われる全国専門学校軟式野球選手権全国大会出場を最大の目標として活動してきましたが、過去6回は全て予選敗退、しかし、昨年史上最強の投手陣を擁し、圧倒的な強さで予選を勝ち抜き、念願の全国大会出場を決めました。全国大会の会場は、プロ野球・千葉ロッテマリーンズの本拠地である千葉マリンスタージアム、1回戦の相手は地元千葉県代表の生命の森学園、結果は9対3と本来の実力が出せないまま初戦敗退となりましたが、部員にとっては忘れられない思い出になったと思います。現在は、今年の全国大会出場に向け、部員一同練習に励んでいます。今後も温かいご声援をお願いします。



早いもので、卒業してもう5年以上経ってしまいました。今でも田舎の方へ行くと学校の近くにいるようであるような事を思い出したりします。

皆さんも記憶の隅にあるのではないのでしょうか?あの頃の関市といえは買い物一つするのも、バイクや車でかなり走らないとダメでした(今もそうなのかな)。距離の感覚が出身地である京都とは全く違い、10kmくらいなんてこともなく、ほとんど信号のない道を市街地まで原付でカッ飛んでいた覚えがあります(関警察のお世話になったことがありませんが、あつ、一度だけありましたー笑)

買い物といえは、私も含めて寮で自炊している学生同士の会話は、今思い出しても笑えます。「おい、ユ○で安かったぞ」とか「ヤ●ゲンで××売ってたぞ」と、まるで主婦(主夫?)のような、とにかく生活感あふれる内容が多かったものです。そんな情報に私もずいぶん助けられた気がします。どこで何が安いという情報のおかげで飢え死にだけは免れました(笑)。

在学中の思い出で一番強烈だったのは、なんといっても一年の時の校舎!!プレハブ作りで廊下を人が歩くだけでもうるさいのに、エプロンでFA-1200やベル47がランナップを始める、窓はガタガタとびびり、防音設備

## 関校舎の思い出

のない教室は先生の声など聞こえない状態になり、全く授業にならなかったのは、航空生産科の卒業生ならしっかり覚えていると思います。しかし、今から思えばもう二度と経験できないことばかりなので、余計に懐かししい思い出です。

現在私は京都の島津エンジンアリング株式会社勤務しており、(株)島津製作所・航空機器事業部技術部の仕事を主としています。入社から2、3

年は航空搭載電子機器グループの一員としてF5-X・OH-X・T-4等のHUD(ヘッドアップディスプレイ)の図面作成や改訂などを行っていました。

その後、グループが変わり、現在はテストスタンドグループにてパイロット訓練用の遠心力発生装置の図面作成や資料作成などの仕事をしています。大変

なことも多いのですが、グループの皆さんの足手まといにならないようにがんばっています。

社会人になってから同期生に会うのは誰かの結婚式(私たちの周りは同期会?)か、各地の航空祭くらいなもので、近いうちに一度、同期会みたいなものが出来ればいいなと思っています。もし出来るようでしたら、その際は諸先生をはじめ、出来るだけたくさんの同期の仲間たちが参加していただければ嬉しく思いますので、どうぞご協力お願いします。



「記念号」'99・9発行にむけて原稿・情報を募集します。内容は:

- 今度、同期会を計画している
- 在学中にはこんな思い出がある
- 30周年、こんな行事をしては?
- 「羽田支部」を作るぞ!
- うちの職場の同窓生
- 写真・イラスト

などなど、挙げれば切りがありません。原稿・情報をお寄せいただいた方には、図書券を進呈いたします。

郵送・電話・ファクス・E-mailにてご連絡ください。

URL▶ <http://www.ccom.or.jp/cna/af/>  
E-mail▶ [cna@ccom.or.jp](mailto:cna@ccom.or.jp)  
NIFTY-Server ID▶ XLY02066

## 編集後記

航友会だよりも来年第10号の発行となります。ちまたでは「次号で廃刊?」とささやかれる中、会報委員一同「記念号」の発行に取り組みますので、ご協力よろしくお願いします。